

野田小学校の研究の概要

《学校教育目標》

豊かな人間性と確かな学力を身に付け、
心身ともに健康で、よりよい自己実現を図る児童の育成

今日的課題から

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得
 - 思考力・判断力・表現力等の育成
 - 読みの力を高める
- 言語活動の充実

自ら考え、生き生きと
学ぶ子ども

たくましい体で、
やりぬく子ども

思いやりのある、
心豊かな子ども

児童の実態から

- 単元のゴールに向かい意欲を持ち続けて学習する子どもが多い
- 身に付けた力を活用できていない
- 自分の思いや考えをもつことができても、表現することに苦手意識をもつ子どももいる

《研究主題》

自分の思いや考えを主体的に表現する子どもの育成
～国語科「読むこと」領域の指導を通して～

「自分の思いや考え」とは…

- ・文章や資料を読み取って思ったことや考えたこと
- ・自分の経験と照らし合わせて分かったこと
- ・筆者の考えや論の進め方に対して感じたこと

「主体的に表現する」とは…

- ・目的意識や相手意識をもち、進んで思いや考えを伝えようとする姿

「目的意識をもった読み」→「表現に生かされる」
→「学びの有用感を得る」「読むこと・表現することへの意欲が高まる」という望ましいサイクルの中で醸成される

◎「表現する」について

読む目的意識、伝える相手意識をおさえた言語活動を設定

○「表現する」言語活動の内容例

説明・報告・感想・紹介・助言
提案・討論・推薦 など

○「表現する」言語活動の活動例

- ・文章化（報告文・紹介文・推薦文）
- ・リーフレット、パンフレット
- ・新聞、ポスター、プレゼン
- ・スピーチ、朗読、音読、演技

《目指す子ども像》

- ・書かれている内容を正しく理解した上で、自分の思いや考えをもつことができる子ども
- ・目的意識や相手意識をもち、自分の思いや考えを主体的に表現することができる子ども

研究内容 1

《単元構想や学習過程の工夫》

- 付けたい力の明確化
- 学ぶ必要感・伝える目的意識や相手意識をもつことができるような単元構想や本時の学習過程の工夫
- 思考を促す発問の工夫

研究内容 2

《交流の工夫》

- 交流の目的、方法、ゴールの明確化
- 交流を全体の学びにつなげる手立て

<研究を支える取り組み>

- 学習習慣についての教職員間での共通理解
- 学習掲示・教室環境の整備・充実
- 「話すこと」「聞くこと」のスキルアップ
- 授業内容と連動させた家庭学習の習慣化（身に付けた力を試す・活用の場）
- チャレンジ週間の取り組み
- 全校統一の家庭音読

(2)「学ぶ」「考える」「伝える」必要感や目的意識、相手意識をもつことができるような単元構想や本時の学習過程の工夫

(3)思考を促す発問の工夫

- ・子どもの思考を働かせ、気づきを深め、思いや考えを引き出すための発問例

＜気づきを深めるための発問例＞

- ・ どうして～と思いましたか。(根拠を掘り下げる発問)
- ・ どの部分からそう考えましたか。(叙述に即して読むための発問)

＜思いや考えを引き出すための発問例＞

- ・ 引用文としてふさわしいのは、どの文章ですか。(検討させるための発問)
- ・ もし～だったら… もし～でなかったら… (知識や経験と結び付けて思考させる)
- ・ 納得したところはどこですか。(自分の考えを引き出すための発問)
- ・ ○○と△△を比べて、共通点や相違点はありますか。(思考の焦点化)

「No.1を決める」
「二者択一」
「並び替え」

- ・ 思考方法を観点とした発問例

思考方法	発問の目的	具体的な発問例
比較する	焦点化・検討・考えの引き出し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引用文として<u>もっともふさわしい</u>ものはどれか。 ・ 「本当の一人前の漁師」と「村一番の漁師」の<u>違い</u>は。 ・ どの「説得の技」が<u>もっとも説得力</u>があるか。 ・ 身のかくし方の<u>違い</u>は。 ・ <u>どこで</u>変化したのか。<u>どこから</u>変わったのか。
理由付けをする	叙述に即して根拠を掘り下げる	<ul style="list-style-type: none"> ・ お父さんは<u>なぜ</u>「にっこり」笑ったのか。 ・ 「ラスト」なのに<u>なぜ</u>誇らしかったのか。 ・ <u>なぜ</u>町の人々は静かに話すようになったのか。
仮定する	経験や知識と結びつける 思考を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>もし</u>、○○の場面が<u>なかったら</u>どうなるか。 ・ <u>もし</u>、文章構成が<u>入れ替わったら</u>。



研究内容 2《交流の工夫》

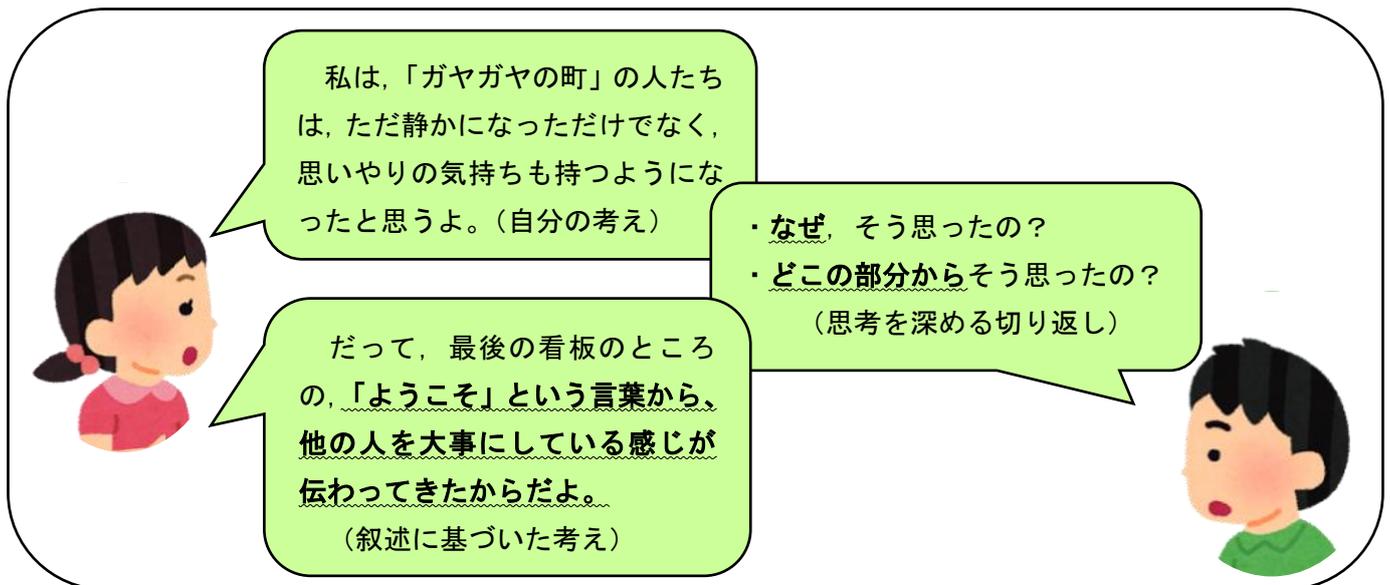
○交流の目的, 方法, ゴールの明確化

- ・交流を行わせるときの指導者側の観点

「考えを形成させるために、
国語科では、「どの叙述から
そのように考えたのか」を十分
に引き出すことが大切。

交流の要素	具体的な内容
目的	考えを「確かめる」「比べる」「選ぶ」「広げる」「深める」「まとめる」
形態	ペア・小グループ（3～4人）・グループ（5・6人）・全体
内容	思いや考えの交流・感想の交流・つまずきの共有と解決
方法	伝え合い（ペア対話・グループ交流）・討論・協議・座談会 等
支えるもの 質を高めるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す」「聞く」のスキルアップ（掲示物の活用を） ・誰とでも自然に会話ができるような学級の雰囲気づくり（学級経営） ・他教科での積極的な交流の場の設定

- ・交流における目指したい子どもの姿



○交流を全体の学びにつなげる手立て

- ・交流における指導者の役割について → 「意図的」で「適切」な関与が必要

段階	指導者の役割	
交流前	○個の意識や考えの把握	○交流の観点の確認と児童との共有
交流中	○計画的な見取りと評価 ◎望ましい活動の紹介（交流のスキル・ねらいに迫る考え）	◎滞っているペア・グループへの支援 ◎全体交流の計画
交流後	○学習のまとめ	○交流の価値付け